

17日 水曜

ヨブ記



なぜ、あなたがたは
全くむなしいことを言うのか。

- 27:1 ヨブはまた、
自分の格言を取り上げて
言った。
- 27:2 私の権利を取り去った神、
私のたましいを苦しめた
全能者をさして誓う。
- 27:3 私の息が私のうちにあり、
神の霊が私の鼻にあるかぎり、
- 27:4 私のくちびるは不正を言わず、
私の舌は決して欺きを告げない。
- 27:5 あなたがたを義と認めることは、
私には絶対にできない。
私は息絶えるまで、
自分の潔白を離さない。
- 27:6 私は自分の義を堅く保って、
手放さない。
私の良心は生涯私を責めはしない。
- 27:7 私の敵は不正をする者のようになれ。
私に立ち向かう者は
よこしまな者のようになれ。
- 27:8 神を敬わない者の望みは
どうなるであろうか。
神が彼を断ち切り、
そのいのちを取り去るときは。
- 27:9 苦しみが彼にふりかかるとき、
神は彼の叫びを聞かれるであろうか。
- 27:10 彼は全能者を彼の喜びとするだろうか。
どんな時にも神を呼ぶだろうか。
- 27:11 私は神の御手について
あなたがたに教えよう。
全能者のもとにあるものを私は隠すまい。
- 27:12 ああ、あなたがたはみな、
それを見たのに、

これまでの流れからいうとツォファルの順番ですが、彼が沈黙していたのでヨブは話始めたようです（前章もヨブの発言なのに、あえて「ヨブはまた…言った」とあることからわかります）。ヨブの気持ちはチャンスとばかりにはやっていたのかもしれませんが。

彼は自分の潔白を主張するとともに、その自分を批判し攻撃する友人たちに呪いともとれることばをかけ始めます（7～8）。彼の論理では当然の気持ちでしょうが、神様から見るならまさにそこもまたヨブの罪です。

私たちは誰も「自分は絶対に間違っていない」と言える者はないのです。むしろ「間違っていない」という思いがサタンに利用され、罪を犯し易いのです。

イエス様は罪のないご自分を殺そうとする人々に対しては、「父よ。彼らをお赦しください。」ととりなしされました。これが「悪くない」者の姿です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

